

■令和2年度 福岡市高速鉄道事業会計決算の概要

1 概 況

(1) 総括事項

福岡市の高速鉄道事業は、昭和56年7月26日に空港線（1号線）室見～天神間で営業を開始して以来、順次部分開業を続け、平成5年3月3日の空港線博多～福岡空港間の開業により、空港線と箱崎線（2号線）の全区間が開業しました。また、西南部地域における基幹交通機関として七隈線（3号線）橋本～天神南間が平成17年2月3日に開業し、空港線、箱崎線と七隈線を合わせて29.8キロメートルで営業しています。

福岡市交通局では、将来にわたって安全で快適な輸送サービスを提供していくため、平成31年2月に、令和元年度以降10年間の経営の基本方針と総合的な取組方針を示した「福岡市地下鉄経営戦略」を策定しており、令和2年度は、この戦略に基づき各取り組みを着実に推進しました。

① 業務実績

令和2年度の利用者数は、年間輸送人員110,919,388人（1日平均303,889人）で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和元年度と比較して62,374,975人（36.0パーセント）減少しています。内訳は、64,971,900人（1日平均178,005人）で、令和元年度と比較して22,839,675人（26.0パーセント）減少しており、定期外の利用者が45,947,488人（1日平均125,884人）で、同じく39,535,300人（46.2パーセント）減少しています。また、乗車料収入（消費税抜き）は185億5,447万円で、令和元年度と比較して、104億3,916万円（36.0パーセント）の減となっています。

こうした中、増客増収の取組みとして、ICカード「はやかけん」電子マネー加盟店の拡充などによるお客様の利便性向上や、感染症予防に配慮した利用促進キャンペーン等の乗客誘致活動を積極的に推進するとともに、広告の販売促進やお客ニーズに対応した新規店舗の誘致及び既存店舗区画の事業者公募など駅空間の有効活用、収益向上に取り組みました。

② 建設改良等

ア 七隈線延伸事業

安全対策に万全を期しながら土木本体工事および軌道工事を推進したほか、車両製作に着手し、また駅建築・設備等の施設関連工事についても順次、発注・契約を行うなど、令和4年度の開業を目指し、着実に事業を推進しました。

イ 営業線改良事業

施設や車両等の健全性・安全性を確保するため、2000系車両の大規模改修や土木構造物の改良工事、姪浜駅リニューアル等を実施するとともに、地下鉄設備の更新や天神ビッグバンによるビル建替えにあわせて、天神駅東口のリニューアルに取り組みました。

また、快適で質の高いサービスを提供するため、駅案内サイン等の改良や昇降機の充実に取り組みました。

③ 財政状況

令和2年度の決算については、総収益259億6,890万円に対し、総費用は292億4,936万円で、差引32億8,046万円の純損失が生じました。

これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により乗車料収入が大幅に減少したことによるもので、令和2年度末における累積欠損金は、1,127億6,555万円となっており、資金繰り対策として、特別減収対策企業債100億円を発行しています。

今後とも、経営戦略に定めた経営理念の下、安全・安心を最優先に、経営の健全化と質の高いサービスの提供に努めます。